

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

皆様におかれましては、平素から TCER の活動に多大なるご支援とご協力を賜り、ありがとうございます。

以下、いくつかの事業の近況を報告させていただきます。

TCER ワーキング・ペーパー・シリーズにつきましては、鯉淵賢理事その他のご尽力により投稿ウェブサイトも一新され、合わせて分野別エディターのシステムも改訂し、以前よりはるかに使いやすい形になりました。また、SSRN や RePEc ともリンクし、世界中からアクセスしてもらえ体制を整えつつあります。TCER のウェブサイト (<http://tcer.or.jp/>) に行きますと、ワーキング・ペーパーが多数貼り付けられているのをご覧いただけると思います。さらに掲載論文が増え、活性化されたシリーズとなっていくことを願っております。

最近国内外で大きな関心を持たれているアベノミクスをめぐっては、TCER としても学術的な観点からしっかりとした発信をしたいということで、特別プロジェクトを立ち上げました。福田慎一理事のリーダーシップの下、2013 年 10 月、「検証・アベノミクス」と題するシリーズを日本経済新聞のゼミナール欄に掲載しました（全 10 回）。記事の PDF 版は、TCER のウェブサイトでも、著者名付きでご覧いただけます。また、2014 年 3 月には東京大学でコンファレンスを開催し、その成果は JJIE に掲載されることになっています。

2013～2014 年度、TCER コンファレンス事業（通称旧逗子コンファレンス）の枠組みで、「国際経済学のフロンティア」という共同研究を行っています。30 歳代から 40 歳代前半を中核とする若いメンバーを集め、この 10 年あまりの間に様変わりした国際貿易論の姿をサーベイしています。旧逗子コンファレンスの出版シリーズは、2007 年 2 月の矢野誠編『法と経済学：市場の質と日本経済』（東京大学出版会）以降しばらく途切れていましたが、2014 年度中には商業出版の目途が立つよう、研究を進めていきます。

2013 年度より、TCER=TIFO フェロウシップ事業を始めました。これは、公益財団法人東芝国際交流財団（TIFO）の助成を受け、東南アジアに本拠を置く経済学研究者を 3 週間から 3 ヶ月程度日本に呼び寄せ、日本の経済学研究者との共同研究を行ってもらうというものです。以下にあるように、2014 年度分の受付を開始しますので、個別研究プロジェクト支援事業ともども、積極的に応募してください。

TCER 産学連携セミナー事業は、経済同友会の協力の下、開催を続けています。去る 2 月には、八田達夫氏（大阪大学・経済同友会政策分析センター所長）と八代尚宏氏（国際基督教大学）をお招きし、「規制改革による成長戦略」と題するセミナーを開催しました。アベノミクスの第 3 の矢を理解する上で貴重な講演となりました。

私およびグレーヴァ、玉田の3名で2年間 TCER をお預かりしてきましたが、来る5月からは早稲田大学に次期執行部を引き継ぐ方向で検討させていただいております。これからも引き続き TCER をよろしく申し上げます。

木村福成（代表理事・慶應義塾大学）@クアラルンプール

（2）2013年度後半の理事会報告

2013年度第2回理事会は、2014年3月4日（火曜日）10時～11時半、飯田橋のTCER事務所において開催されました。

平成26年度の事業計画書及び平成26年度の予算書が承認されました。ワーキング・ペーパー投稿システムへの機能追加として RePEc への接続をおこなうことが承認されました。評議員選定委員会を招集すること、評議員候補者を推薦して評議員選定委員を選任することが承認されました。理事監事候補者案が提示され、次回理事会で推薦の決議を行うことが承認されました。また、2名の新規フェローの入会も承認されました。パート事務局職員就業規則が制定されました。

報告事項として、内閣府公益認定等委員会の立入検査の実施、立入検査の講評などについて説明がありました。

（3）2013年度後半の評議員会報告

2013年度第2回評議員会は、2014年3月17日（月曜日）10時～10時半、日本工業倶楽部で開催されました。平成26年度の事業計画書及び平成26年度の予算書が承認されました。

（4）所属先変更のご連絡のお願い

今年度中に所属先が変更になった方、新年度から変更になる方は、お手数をおかけしますが、TCER事務局（tcer@mbs.sphere.ne.jp）までご連絡下さい。また、メールアドレスの変更を希望なされるフェローも同様に事務局までご連絡ください。

必要事項は、氏名（フリガナ）、所属先、所属先住所（郵便番号）、電話番号、メールアドレスとなります。

(5) 2014年度研究助成のお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、経済学研究者であればTCERフェローに限らずどなたでも応募することができる個人研究助成を行っています。お知り合いにもご紹介下さい。

本制度設立の趣旨：本研究助成制度は、TCERフェローを含む経済学研究者の個人及び相互による経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することを目的としています。

応募資格：大学および研究機関に所属する経済学研究者（TCERフェローでなくてもよい）。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方（共同研究者である場合も含む）は応募できません。

助成対象期間：2014年4月～2015年3月

報告義務：2015年3月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターワーキング・ペーパーとしてまとめる。これはRePEcやSSRNのTCERリサーチペーパーシリーズにも入ることになる。（なお研究成果の提出は2016年9月末まで延長できる。）

助成金額：1件当たり最高40万円

応募締め切り：2014年5月2日（金）午前9時

応募用紙：所定の応募用紙に入力し、Wordファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER事務局Eメールアドレス (tcer@mbs.sphere.ne.jp)

(6) 2014年度TCER=TIFOフェローシップのお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、経済学研究者であればTCERフェローに限らずどなたでも応募することができる、TCER=TIFOフェローシップ事業を開始致します。お知り合いにもご紹介下さい。

本制度設立の趣旨：本制度は、東南アジアに本拠を置く経済学研究者と日本の経済学研究者との間での、日本を含めた経済問題に関する共同研究を促進することを目的とし、公益財団法人東芝国際交流財団からの助成を受けて、東南アジアに本拠を置く経済学研究者を3週間から3カ月程度日本に呼び寄せる資金を提供するものである。

応募資格：日本国内の大学および研究機関に所属する経済学研究者（TCERフェローでなくてもよい）で、東南アジアに本拠を置く経済学研究者（以下共同研究者という）と日本を含めた経済問題に関する共同研究を行う予定の者。ただし、同一の共同研究者で過去3年以内に助成を受けた者は応募できない。

助成対象期間：2014年4月～2015年3月末の間で最大3ヶ月

報告義務：2015年3月末までに所定の様式に従って共同研究報告書・支出明細を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターのワーキング・ペーパーとしてまとめる。これはRePEc やSSRNのTCERリサーチペーパーシリーズにも入ることになる。（なお研究成果の提出は2016年3月末まで延長できる。）

助成金額：総額100万円（1件あたり最高100万円）

応募締め切り：2014年5月2日（金）午前9時

応募用紙：所定の応募用紙に入力し、Wordファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER事務局Eメールアドレス（tcer@mb.sphere.ne.jp）

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 東アジア研究交流事業（東アジア経済セミナー）ご案内

2014年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー（East Asia Seminar on Economics, 第25回）は、2014年6月20-21日に東京で開催の予定である。今年度のテーマは、” Unconventional Monetary Policy” である。

(2) TCER コンファレンス事業（旧逗子コンファレンス）報告とご案内

2013年度より、旧逗子コンファレンスの伝統を汲み、2年計画で共同研究を行い、商業出版へとつなげていくプロジェクトを再開している。2014年度は、前年度からの継続で「国際経済学のフロンティア」共同研究を進める。2013年12月に開催した第1回ワークショップに引き続き、2014年8月19～20日に慶應義塾大学において第2回ワークショップを開催予定である。

公2 学術研究交流促進事業

(1) ミクロ経済分析事業（2013年度 TCER ミクロコンファレンス・DC コンファレンスとの共同開催）報告

2013年度 TCER ミクロコンファレンスは、9月13日（金）に第19回ディセントラライゼーション・コンファレンス（DC）と共催の形で横浜国立大学にて行われた。また今年度は日本経済学会秋季大会の前日開催であった。内容については、例年と同様、招待講演と投稿論文の発表によって構成された。招待講演は尾崎裕之氏（慶應義塾大学）による意思決定理論に関する研究報告であった。投稿論文の内訳は、ミクロ経済

学の理論と応用だけでなく、政治経済学やマクロ経済学に関する論文も集まった。コンファレンスでは、10時10分-11時30分、13時-16時50分に2つの並行するセッションと17時20分-18時20分に招待講演が行われた。以上の通り、招待講演論文と13本の投稿論文について、全国の23大学から総勢47名の研究者・大学院生が集まり、活発な意見交換が行われ、大変有意義なコンファレンスとなった。

なお、プログラム委員は梶井厚志（京都大学）、熊野太郎（横浜国立大学）、小林創（関西大学）、関口格（京都大学）、武岡則男（横浜国立大学）、三浦慎太郎（神奈川大学）の6名が担当した（敬称略）。コンファレンスのプログラムとスケジュールは以下の通りである。

2013年度TCERミクロコンファレンス(第19回DCコンファレンス)プログラム

<セッションA. メカニズムデザイン> 102 教室

座長：若山琢磨（龍谷大学経済学部）

(1)10:10 - 10:50 無藤望（一橋大学経済学研究科）

Implementation in Undominated Strategies with Partially Honest Agents

(2) 10:50 - 11:30 渡部真弘（明星大学経済学部）

Duality Approach to Nonlinear Pricing Schedules with Applications

<セッションB. 経済政策の理論分析> 201 教室

座長：中田啓之（東京大学経済学研究科・経済産業研究所）

(1) 10:10 - 10:50 松井潤（早稲田大学経済学研究科）

Optimal Redistributive Policy under Incentive Constraint :

The Value of In-Kind Transfer

(2) 10:50 - 11:30 大東一郎（慶應義塾大学商学部）

Macroeconomic Dynamics of Human Development and the Creation of a Market Economy

<セッションA. ゲーム理論とその応用> 102 教室

座長：関口格（京都大学経済研究所）

(1) 13:00 - 13:40 Shuige Liu（早稲田大学経済学研究科）

Eliminations of Dominated Strategies and Inessential Players:

An Abstraction Process

(2) 13:40 - 14:20 白田康洋（小樽商科大学商学部）

Goods Revenue Monotonicity in Combinatorial Auctions

(3) 14:20 - 15:00 笠松怜史（筑波大学理工学群社会工学類）

2社ベルトラン競争下における特許ライセンスのゲーム理論的分析

<セッション B. 政治の経済分析> 201 教室

座長：篠原隆介（法政大学経済学部）

(1) 13:40 – 14:20 石原章史（京都大学経済学研究科）

A Citizen-Candidate Model with Sequential Entry

(2) 14:20 – 15:00 岡本実哲（慶應義塾大学経済学研究科）

The Borda Rule and the Pairwise-Majority-Loser Revisited

<セッション A. 数理経済学> 102 教室

座長：兵庫一也（龍谷大学経済学部）

(1) 15:30 – 16:10 白井洸志（学振 SPD・京都大学）

A Revealed Preference Test for Normal Demand and the Non-Refutability
of Concave-Supermodular Utility Functions

(2) 16:10 – 16:50 吉原直毅（一橋大学経済研究所）

The Measurement of Labour Content: A General Approach

<セッション B. バブルの経済分析> 201 教室

座長：中村友哉（大阪大学社会経済研究所）

(1) 15:30 – 16:10 櫻川昌哉（慶應義塾大学経済学部）

Bubble Cycle

(2) 16:10 – 16:50 浅古泰史（早稲田大学政治経済学部）

The Boy Who Cried Bubble: Public Warnings against Riding Bubbles

<招待講演> 101 教室

司会：宇井貴志（一橋大学経済学研究科）

17:20 – 18:20 尾崎裕之（慶應義塾大学経済学部）

Subjective Error Measure

（2）マクロ経済分析事業（2013 年度 TCER マクロコンファレンス）報告

第 15 回 TCER マクロコンファレンスは 2013 年 12 月 14 日、15 日、東京大学において開催され、内外の多くの研究者、実務家が参加した。例年通り、多くの投稿論文があり、プログラム委員会により選ばれた 10 本の論文が報告された。本コンファレンスでは例年、一つの論文につき 20 分の報告、20 分の指定討論者による討論、20 分のフロアを含む議論の時間が設定されている。通常の学会と比べて多くの討論時間を確保しており、今回も、各セッションで非常に活発で質の高い議論が繰り広げられた。

報告内容も、リーマンショック後の金融危機と金融機関の役割、所得分配、外国人労働、地価のマイクロ分析等、非常に多様な研究テーマがカバーされたものとなった。以下にプログラムを転載する。

プログラム 第 15 回 TCER マクロコンファレンス

2013 年 12 月 14 日 (土)、15 日 (日)

東京大学本郷キャンパス 小島ホール 2 階コンファレンスルーム

オーガナイザー (代表) : 渡辺努 (東京大学)、小野善康 (大阪大学)、阿部修人 (一橋大学) (敬称略)

プログラム委員 : 青木浩介 (東京大学)、小川一夫 (大阪大学)、塩路悦朗 (一橋大学) (敬称略)

主催 : 東京大学「長期デフレ」プロジェクト

共催 : 大阪大学大学院経済学研究科・社会経済研究所『卓越した大学院拠点形成支援補助金「人間行動と社会経済のダイナミクス」拠点』

一橋大学経済研究所 物価研究センター、TCER (公益財団法人 東京経済研究センター)

12 月 14 日 (土)

12:30 開場・受付開始

セッション 1 : 金融とマクロ経済

座長 : 青木浩介 (東京大学)

13:00-14:00 陣内了 (テキサス A&M 大学)

“Liquidity, Growth and the Great Recession” (Pablo A. Guerron-Quintana との共著)

コメント : 廣瀬康生 (慶応義塾大学)

14:00-15:00 黒住卓司 (日本銀行)

“What Caused Japan’s Great Stagnation in the 1990s?” (開発壮平との共著)

コメント : 西山慎一 (東北大学)

セッション 2 : マクロ経済の実証分析

座長 : 小川一夫 (大阪大学)

15:30-16:30 小野有人 (みずほ総合研究所)

“Lending Pro-Cyclicality and Macro-Prudential Policy: Evidence from Japanese LTV Ratios” (内田浩史、Gregory Udell、植杉威一郎との共著)

コメント : 細野薫 (学習院大学)

16:30-17:30 才田友美 (一橋大学経済学研究科)

“Aging and Real Estate Prices: Evidence from Japanese and U.S. Regional Data” (清水千弘、

渡辺努との共著)

コメント：宇南山卓 (財務省)

12 月 15 日 (日)

セッション 3：動学モデル

座長：塩路悦朗 (一橋大学)

9:00-10:00 太田知宏 (イングランド銀行)

“Forbearance and Broken Credit Cycles”

コメント：上田晃三(早稲田大学)

10:30-11:30 Hikaru Saijo (カリフォルニア大学サンタクルーズ校)

“The Uncertainty Multiplier and Business Cycles” (英語による報告)

コメント：片山宗親 (京都大学) (英語による討論)

11:30-12:30 上田晃三 (早稲田大学)

“Buyer-Size Discounts and Inflation Dynamics” (尾島真由美、篠潤之介との共著)

コメント：敦賀貴之 (京都大学)

12:30-13:30 ディスカッションとランチ (挨拶：小野善康(大阪大学))

セッション 4：財政と所得分布

座長：阿部修人 (一橋大学)

13:30-14:30 青木周平 (一橋大学)

“Zipf's Law, Pareto's Law, and the Evolution of Top Incomes in the U.S.” (楡井誠との共著)

コメント：鈴木通雄 (東京大学)

15:00-16:00 内藤久裕 (筑波大学)

“Pareto-improving Immigration and Its Effect on Capital Accumulation in the Presence of Social Security”

コメント：加藤竜太 (国際大学)

16:00-17:00 辻山仁志 (ゲーテ大学フランクフルト校)

“Optimal Income Taxation: Mirrlees Meets Ramsey” (Jonathan Heathcote との共著)

コメント：山田知明 (明治大学)

17:00 閉会

(3) 若手研究者育成支援事業 (2013年度ジュニアワークショップ) 報告

TCER ジュニアワークショップは、2013年9月12日・13日に、日本大学において関西労働研究会・東京労働経済学研究会・アジア太平洋研究所との共催で第16回労働経済学コンファレンスを開催した。

労働経済学を専門とする多くの研究者、そして労働経済学の分野を研究する大学院生が一堂に会し意見を密に交わすことで、労働経済学の研究を奨励することが目的である。全体の参加者は68名、うち14名が大学院生であった。

大学院生以外の研究者を対象に、労働経済学の分野で合計8本程度の報告論文を公募し、これとは別に大学院生を対象としたポスターセッションを両日ともに1時間ずつ用意した。また、当日参加者からの投票でポスターセッション最優秀賞を選出し、森知晴（大阪大学）・菊地信義（東京大学）の2名が受賞した（敬称略）。プログラムは以下の通り。

1日目 2013年9月12日(木)

12:40-12:45 開会の挨拶

セッション1 (座長：神林龍)

12:45-13:45 報告者：齋藤隆志（明治学院大学）

討論者：阿部正浩（中央大学）

労使コミュニケーションは成果主義の導入効果を高めるか？

13:45-14:45 報告者：松本章邦（東京大学）

討論者：佐々木勝（大阪大学）

Safety and Health of Contract Workers in Japan's Nuclear Utility Industry. Can we keep the safety standard of the nuclear power plant?

15:00-16:00 報告者：Sébastien Lechevalier（京都大学）

討論者：川口大司（一橋大学）

The Heterogeneity of Employment Adjustment Across Japanese Firms. A Study Using Panel Data (英語報告)

16:00-17:00 ポスターセッション

明坂弥香（大阪大学） 成果主義が賃金格差に与える影響

古村聖（名古屋大学） Pension and the family

森知晴（大阪大学） The Hidden Costs of Control in the Field

田中喜行（神戸大学） 若年無業問題に関する一考察：サーチ理論のインプリケーションの検証より

菊地信義（東京大学） Intergenerational Transmission of Education in Japan

采川香織（東京大学） 企業の人事データを用いた転職者の賃金と昇進の分析

孫亜文（一橋大学） 結婚・出産プレミアムは本当にあるのか

2 日目 2013 年 9 月 13 日(金)

セッション 2 (座長：中村二郎)

09:30-10:30 報告者：李嬋娟 (明治学院大学)

討論者：乾友彦 (日本大学)

The Effect of Personality Traits and Behavioral Characteristics on Schooling, Earnings and Career Promotion

10:30-11:30 報告者：陣内悠介 (国際大学)

討論者：田中隆一 (政策研究大学院大学)

The Effects of a Teacher Performance-Pay Program on Student Achievement: A Regression Discontinuity Approach

11:30-12:30 ポスターセッション

セッション 3 (座長：大竹文雄)

13:30-14:30 報告者：岸智子 (南山大学)

討論者：原ひろみ (日本女子大学)

Labour market transitions for female employees in Australia and Japan: An analysis based on longitudinal data for both countries

14:30-15:30 報告者：北條雅一 (新潟大学)

討論者：玄田有史 (東京大学)

性別役割分業と夫婦間性交渉頻度

15:45-16:45 報告者：川田恵介 (広島大学)

討論者：及川浩希 (早稲田大学)

Working out the impacts of labor market integration

16:45-16:50 閉会の挨拶

(4) TCER 定例研究会 (2013 年度 TCER 研究会) 報告

2013 年度の TCER 研究会は慶應義塾大学にておこなわれた。2014 年度からは早稲田大学が幹事校となる。TCER 定例研究会は、フェローの方はいつでも参加できます。今年度後半の開催は以下の通りである。

September 27 (Fri) 2:45-4:15

Maruyama, Shiko, University of New South Wales

"Do Siblings Free-Ride in 'Being There' for Parents?"

September 27 (Fri) 4:30-6:00

Hirose, Yasuo (Keio University, Faculty of Economics)

"Zero Lower Bound and Parameter Bias in an Estimated DSGE Model(with Inoue, Atsushi)"

October 4 (Fri) 4:30-6:00

Fujiwara-Greve, Takako (Keio University, Faculty of Economics)

"Diverse Behavior Patterns in a Symmetric Society with Voluntary Partnerships(with Okuno-Fujiwara,Masahiro)"

October 11 (Fri) 2:45-4:15

Ogaki, Masao (Keio University, Faculty of Economics)

"Normative Behavioral Economics Based on Unconditional Love and Moral Virtue"

October 11 (Fri) 4:30-6:00

Ikeda, Shinsuke(Osaka University,Institute of Social and Economic Research)

"Willpower, time preference, and consumer dynamics(with Ojima, Takeshi)"

October 18 (Fri) 2:45-4:15

Cheng, Harrison (University of Southern California,Department of Economics)

"Optimal Auctions and First-Price Auctions with Speculative Resale"

October 18 (Fri) 4:30-6:00

Park, Sang Soo (Korea University,Department of Economics)

"Inference in Synthetic Control Approach: Generalization of Difference-in-Difference Estimation"

October 25(Fri) 4:30-6:00

Simizutani Satoshi (Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI).)

"Option Value of Work, Health Status, and Retirement Decisions: New evidence from the Japanese Study on Aging and Retirement "

November 1 (Fri) 4:30-6:00

Rodriguez ,Maria Martin(Nagoya University,School of Economics)

"Better the Devil you Know: A Dynamic Duopoly Model with Switching Costs"

November 8 (Fri) 4:30-6:00

Aoyagi, Masaki(Osaka University,Institute of Social and Economic Research)

"Bertrand Competition under Network Externalities"

November 15(Fri) 2:45-4:15

Takayama, Shino(University of Queensland,School of Economics)

"A Model of Two-Stage Electoral Competition"

November 15(Fri) 4:30-6:00

Edwards, Ronald A.(Tamkang University,Department of Economics)

"Economic Revolution: Song China & England"

November 29(Fri) 4:30-6:00

Fujishima, Shota (University of Tokyo,Center for Spatial Information Science)

"Growth and spatial agglomeration in an overlapping generations economy (with Oyama, Daisuke.) "

December 6 (Fri) 4:30-6:00

Ichimura, Hidehiko(University of Tokyo,Graduate School of Economics)

"Conditioning Variables in Program Evaluation Methods"

December 13 (Fri) 4:30-6:00

Matsuyama, Kiminori(Northwestern University,Department of Economics)

"Revisiting the model of credit cycles with Good and Bad projects"

December 20 (Fri) 4:30-6:00

Otsuki, Tsunehiro(Osaka University,School of International Public Policy)

"Are Food Safety Standards Barriers to Trade? Empirical Evidence"

January 17 (Fri) 4:30-6:00

Okamoto, Ryosuke(National Graduate Institute for Policy Studies)

"Measuring the effect of sorting by migration on regional wage disparities"

(5) 特別プロジェクト「アベノミクス」報告

TCER では、2013 年度、特別プロジェクトとして「アベノミクス」を立ち上げた。アベノミクスは、2012 年 12 月 26 日より始まった第 2 次安倍内閣において、安倍首相が表明した”三本の矢”を柱とする経済政策のことで、政策の最大目標を、デフレ脱却と経済回復と位置づけ、国内だけでなく世界からも注目を集めている。ただ、その効果には賛否両論があるだけでなく、現状ではこの問題を学術的な観点から本格的に分析した論文は非常に限られている。

そこで、TCER では学術的観点からこの問題を取り上げ、TCER フェローを中心に研究を進め、以下の通り、その成果を社会に還元すると同時に、コンファレンスを開催し、その成果を国際的な学術雑誌に公表した。なお、アベノミクスは現在進行中のため、TCER では 2014 年度も特別プロジェクトとして「アベノミクス」を継続し、その成果を社会に還元すると同時に、コンファレンスを開催し、その成果を国際的な学術雑誌に公表していく予定である。

① 社会還元

2013 年 7 月 22 日 (月) 15:00~17:00、日本工業倶楽部 3 階大ホールにおいて、以下の一般向けセミナーを開催した。

司会：木村福成 (慶應義塾大学、TCER 代表理事)

報告者：渡辺努 (東京大学、TCER フェロー)

討論者：堀井昭成 (キャノングローバル戦略研究所)、福田慎一 (東京大学、TCER 理事)

② 一般向け解説

日本経済新聞・ゼミナール欄に 2013 年 10 月 7 日より「検証・アベノミクス」を連載した。各回の担当者は以下の通りである。

第 1 回(10/7) 期待先行で株高と円安が進む (福田慎一、東京大学、TCER 理事)

第 2 回(10/8) 大胆な緩和でインフレ予想喚起 (塩路悦朗、一橋大学、TCER フェロー)

第 3 回(10/9) 為替相場への緩和効果は不鮮明 (加納隆、一橋大学、TCER フェロー)

第 4 回(10/10) 海外投資家による資産価格上昇 (福田慎一、東京大学、TCER 理事)

第 5 回(10/11) デフレ脱却は長期金利にらんで (山田潤司、富山大学)

第 6 回(10/14) 基礎的財政収支の黒字化は困難 (土居丈朗、慶應義塾大学、TCER フェロー)

第 7 回(10/16) 成長戦略には既得権者が抵抗も (塩路悦朗・福田慎一)

第 8 回(10/17) 景気回復でも賃金上昇は遅れる (川口大司、一橋大学、TCER 理事・福田慎一)

第9回(10/18) 雇用改善の背景に非正規の増加 (川口大司・福田慎一)

第10回(10/21) 平時への金融政策転換など課題 (塩路悦朗・福田慎一)

③学術研究

2014年3月7日(金)に東京大学経済学研究科学術研究棟(小島ホール)で、東京大学日本経済国際共同研究センター(CIRJE)および日本学術振興会研究拠点形成事業(B. アジア・アフリカ学術基盤形成型)との共催のもと、コンファレンスを開催した(プログラムは下記参照)。コンファレンスの報告論文は、レフェリー・プロセスを経て *Journal of the Japanese and International Economies* の特集号で公開予定である。

プログラム

第1セッション アベノミクスは何をもたらしたか?

座長 植田和男(東京大学)

10:00-11:05

報告者: 福田慎一(東京大学)

Shin-ichi Fukuda, "Abenomics: Why was it so successful in changing market expectations?"

討論者: 塩路悦郎(一橋大学)

11:05-12:10

報告者: 中園善行(早稲田大学)・上田晃三(早稲田大学)

Ippei Fujiwara, Yoshiyuki Nakazono, and Kozo Ueda, "Has Monetary Regime Changed with the Abenomics?"

討論者: 青木浩介(東京大学)

第2セッション 「第二の矢」と「第三の矢」

座長 吉川洋(東京大学)

13:10-14:15

報告者: 荒井洋一(GRIPS)・市村英彦(東京大学)・川口大司(一橋大学)

Yoichi Arai, Hidehiko Ichimura, and Daiji Kawaguchi, "What keeps Japanese youth's employment rate high? The role of educational upgrading"

討論者: 近藤絢子(横浜国立大学)

14:15-15:20

報告者: 山田潤司(富山大学)

Kensuke Miyazawa and Junji Yamada, "Abenomics and Fiscal Consolidation"

討論者: 山田知明(明治大学)

第3セッション アベノミクスと円安

座長 櫻川昌哉 (慶應義塾大学)

15:40-16:45

報告者：塩路悦郎 (一橋大学)

Etsuro Shioji, "Time varying pass-through: Will the yen depreciation help Japan hit the inflation target?"

討論者：加納隆 (一橋大学)

16:45-17:50

報告者：加納隆 (一橋大学)

Takashi Kano and Hiroshi Morita, "An Equilibrium Foundation of the Soros Chart"

討論者：上田晃三 (早稲田大学)

編集後記

公益財団法人への移行前後から総務担当理事を務め、早4年間に過ぎました。私事になりますが、この度理事を退任することにいたしました。至らぬ点多々あったかと思いますが、理事の皆様とフェローの皆様のご助力でここまでやって参りました。心より感謝いたします。TCERは日本におけるNBERを目指すという目標のもと皆で頑張っております。まだ道半ばではありますが、この4年の進歩は大きかったと思います。今後は一フェローとして関わっていく所存です。皆様の今後のご活躍をお祈りしております。(K.H.)。

Newsletterに関するご意見やご感想は代表理事木村福成 vzf02302@nifty.ne.jp
または総務理事原田喜美枝 kimieh@tamacc.chuo-u.ac.jp までご連絡下さい。

公益財団法人 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp